

## 41 レイデイ・メアリの息子が人痘接種

を受けた日付と場所について

小田 泰子

夫のモンタギュー公トルコ大使とともにトルコへ行ったレイデイ・メアリは、そこで行われている人痘接種法を見聞し、その有用性に確信を持った。メアリはロンドンにいる友人のチスウエルに「この有用な術を自分の子供に受けさせる。英国で天然痘を予防するこの術を受け入れる医師がいたら英国で広めるように手紙を書く。生きて英国に帰ったら勇気を持ってこの術に反対する医師と闘う。私のヒロイズムに期待して下さい」と手紙を書いた。この手紙の日付は一七一七年四月一日で、発信地はアドリアノーブル(現エディルネ)である。メアリがこの手紙に書いたように、長男のエドワードにトルコで人痘接種を受けさせたことが知られている。

エドワードが人痘接種を受けた日付と場所について

は、大使付き外科医メートランドがその著『人痘法の報告』に「一七一七年三月にコンスタンチノーブル(現イスタンブール)の近くのペラで行われた」と記している。これによって、これまでは、この日が「メアリの息子が接種を受けた日」とされてきた。

これに加えて、トルコではこの年をトルコにおける人痘接種記念の年として、一九六七年に「人痘接種二五〇年記念切手」を発行した。切手に添付された文書には「トルコで人痘接種が初めて子供に行われたのはエディルネのソクルメメットパサ公衆浴場で、それは一七一七年のことであった。……これを見聞したイギリス公使モンタギュー夫人のレイデイ・メアリは、その子供に人痘接種を受けさせ、このことを一七一七年四月に手紙でロンドンにいる友人に知らせた」とある。

しかし、『メアリ書簡集』を検討すると、エドワードはメートランドが言う一七一七年三月にはコンスタンチノーブルにいなかったことが判明し、また、その日には接種を受けなかったという結論に達する。

上記のメアリがチスウエルに書いた手紙の文面からも

一七一七年四月一日には、メアリはまだ子供に接種を受けさせていなかったと理解される。

また、一七一七年三月にはメアリたちはコンスタンチノープルではなくてアドリアノープルにいたと考えられる。というのは一七一七年五月一七日の手紙の発信地はアドリアノープルであり、発信地がコンスタンチノープルになるのは一七一七年五月二十九日以降のことであるから。そして、五月二十九日付けの手紙に「昨夜ペラに到着しました」とある。これらのことから、メアリは一七一七年五月中旬まではアドリアノープルに滞在していたと考える。

さらに、翌年の一七一八年三月二三日にメアリは「あなたの息子は先週の火曜日に接種を受けました。娘の乳母がまだ天然痘に感染していなかったため娘には接種をしませんでした」と夫に手紙を書いている。以上のことから、エドワードが人痘接種を受けた日は「先週の火曜日」すなわち一七一八年三月一日と特定できる。

切手に添付された文書には「トルコで人痘接種が初めて子供に行われたのはエディルネのソクルメメットパサ

公衆浴場で、それは一七一七年のことであった」とあるが、これも正しくない。人痘法が初めてヨーロッパに紹介されたのは一七一四年で、その数年前からコンスタンチノープルで行われていた人痘法についてチモニウスが報告したのであった。

なお、エドワードが接種を受けた「コンスタンチノープルのペラ」についても多少の知識を得たので報告する。

(仙台市小田眼科医院)